

外国人から見る日本の労働環境について

田巻 凜太郎

現在日本で私たちの世代が直面する日本の少子高齢化問題は深刻なものである。日本の少子高齢化がこの先も進み続けることは明白であり、解決が求められる問題である。少子高齢化による影響の1つに労働者不足が挙げられる。それは今の日本が失われた30年と言われているように経済成長の停滞、社会保障の担い手不足などの問題発展にしていくなど労働者不足による影響は多く存在する。

私は外国人労働者が日本に来て働きたいと思うような環境を作ることが大切だと考える。そして日本がこれから再び世界と競い、先進国としてあり続けるためにはただ無暗に外国人労働者を増やし続けるのではなく、技術、専門知識を持った優秀な人材を増やし生産性、国際競争力を向上させなければならない。

しかし、日本の外国人に対しての扱いはあくまで社会の外部と認識があるように取れてしまう。その理由として外国人の管理を適切に行わなければいけない入管が度々、外国人に対して杜撰な対応をとり結果的に人権を損なわせているケースがある。

そして外国人労働者受け入れの政策の代表例でもある技能実習制度でも外国人労働者の増加に比例して失踪者数は増加し続けており、現場の改善は数字を見る限り、まだ改善し切れていない。政府に関しても定期的に外国人労働者の受け入れを加速させるように政策を促しているにも関わらず移民政策とは認めず、あくまで社会の外部から一時的な人材の穴埋めという姿勢は未だに崩さずにいることも杜撰な扱いに繋がっている。

これからの日本に外国人労働者は不可欠で迎え入れる為の窓口だけは増え続けているが外国人に対しての見解があくまで社会の外部であり、日本人と同様の扱いはされておらず、それが外国人労働者の日本に求めるものである。

最後に学生生活を支え続けてくれた親族と3年間お世話になった川野先生に感謝を伝えたいです。優秀ではなかったですがゼミ長を任せていただき、ありがとうございました。